



導入の目的

1. 東京証券取引所様が提供する取引所システムへの接続サービスとして、広域災害時における事業継続性を確保したネットワークのMPLS監視システムとして採用
2. MPLS網のパスの正常性、切替を監視し運用品質を向上
3. MPLS網のパスを視覚化し、運用者の負担（工数）を削減

導入企業

- ◆ 企業名：株式会社東京証券取引所
- ◆ 業種：その他金融（有価証券の売買又は市場デリバティブ取引を行うための市場施設の提供、相場の公表及び有価証券の売買等の公正の確保その他の取引所金融商品市場の開設に係る業務）
- ◆ 社員数：407名（平成24年3月31日現在）



監視対象

◆ 監視対象

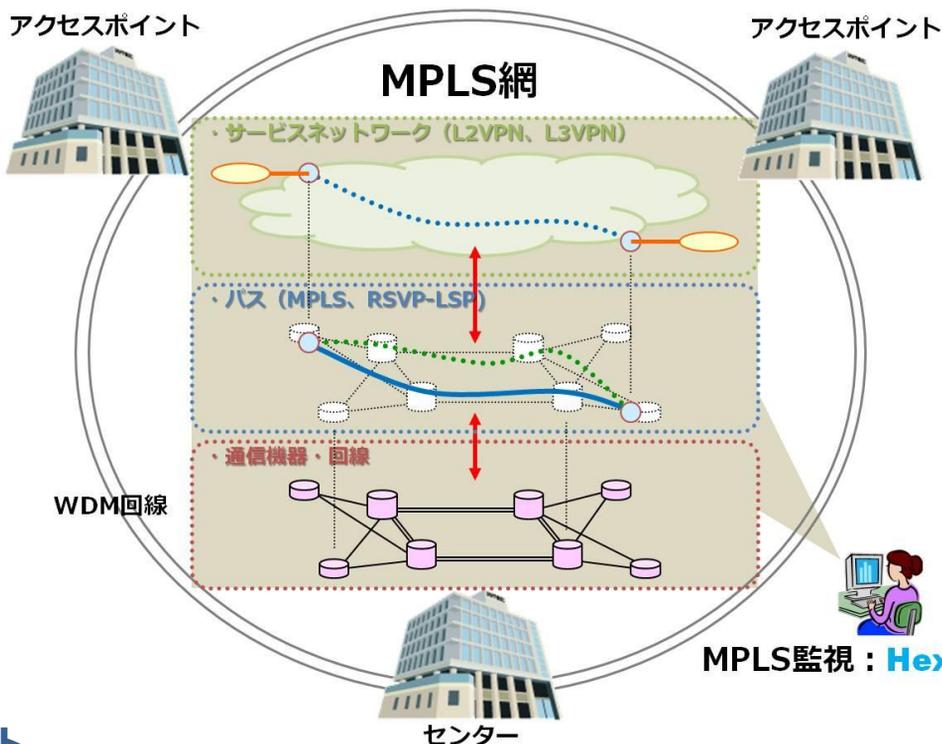
ノード
RSVP-LSP
L2VPN (VPLS)
L3VPN (IPVPN)

◆ 監視対象機種

Juniper MXシリーズ

◆ 監視項目

Trap受信
MIB情報収集
状態確認コマンド発行



Hexa導入のポイント

◆ パスの見える化

MPLSネットワークにおいて複雑に設定されたパスや予備回線（バックアップパス）を視覚化、状態管理を行なうことにより、確実、かつスケーラブルなパス管理を実現

◆ リアルタイムなパスイベントの監視

MPLSネットワークで発生したイベントを監視、リアルタイムな障害検出を可能にします。また、パスの見える化機能とあわせて、障害箇所を的確に把握可能

◆ イベント原因と影響範囲の特定（運用作業の効率化）

相関付け（Correlation）機能により、パス障害の原因となる通信機器・回線の障害の特定、あるいはパス障害により影響を受けたサービスを把握

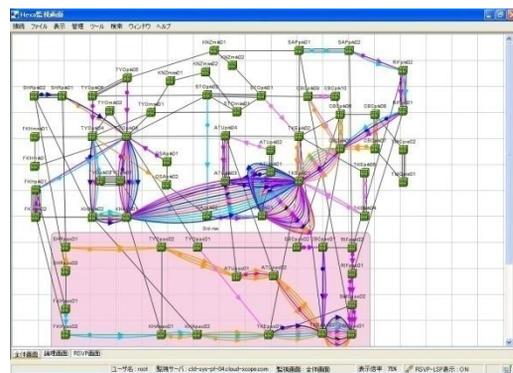




RSVP-LSPのトポロジ表示・検索

監視ノードに設定されたRSVP-LSP、ローカルリペアの詳細情報表示、トポロジ表示が可能

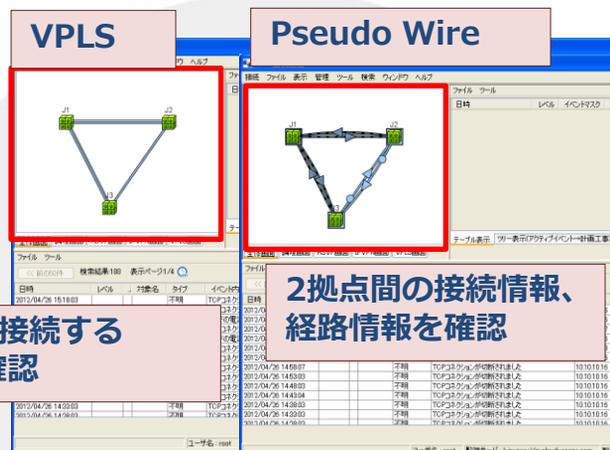
- ◆ 関連するプライマリパスとバックアップパスをトポロジ上に同時に表示
- ◆ RSVP-LSPと関連する上位プロトコルとの相関関係を表示
- ◆ 経路変更発生後の最新の経路情報をトポロジ上に表示



MPLS-L2VPNのトポロジ表示・検索

監視ノードに設定されたPseudo Wire(Martini方式)、VPLS(Kompella方式)の詳細情報表示、トポロジ表示が可能

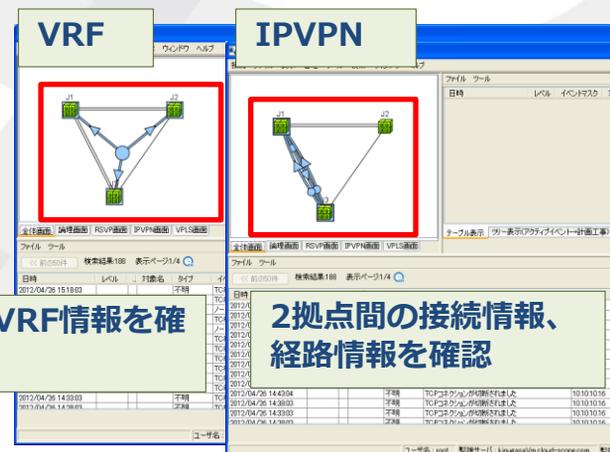
- ◆ VPLS : 全拠点の接続情報を管理
- ◆ Pseudo Wire : 2拠点間の接続情報、経路情報を管理



MPLS-L3VPNのトポロジ表示・検索

監視ノードに設定されたVRFと接続情報の詳細情報表示、トポロジ表示が可能

- ◆ VRF : 拠点毎のVRF情報を管理
- ◆ IPVPN : 2拠点間の接続情報、経路情報を管理



クラウド・スコープ・テクノロジーズについて

クラウド・スコープ・テクノロジーズは、次世代のネットワーク管理・監視・分析システムの開発・販売を目的に2008年7月1日に設立されました。通信事業会社、大規模ネットワークを保有されている企業を中心に監視システム製品（Hexa:監視・管理機能、NetworkDesigner:プロビジョニング機能）の開発・販売を行っています。

本製品のお問合せ先:

販売代理店:

株式会社 クラウド・スコープ・テクノロジーズ

TEL:03-3403-8321

E-Mail: cloud-info@cloud-scope.com

Web: <http://www.cloud-scope.com/>

2012.09.04

